

研究の背景・目的

本校森林科学科の実習フィールドとなっている月形演習林はフィールドが広大であり、林道や林分地等を把握することが生徒にとって難しく、森林を管理する上で重要な全体像をイメージしにくい状況です。見本林は入りずらく、入っても、樹種看板以外の情報や、ベンチなどのゆっくりできる場所もなく、興味のない人には面白みがなく、それぞれ「利用しづらい」ことが課題であり、これを改善したいと考えました。

それらの課題を解決し利用しやすい月形演習林と校内見本林を創造することを目標としました。

研究の内容・成果

月形演習林の活動

演習林の全体像を把握するために、林道、林分の調査を行います。その際に、昨年取り付けした看板の状態を把握し、異常や改善点を探っていきます。そして、秋までに林道の状況がわかる案内看板を作成し、設置する予定としました。

5月の踏査の際、改善点として「看板の位置が低く、目線から遠く見つけにくい」、「草やササに隠れてしまい、看板そのものが役に立たない」という意見が出たため、看板の位置を上げることにしました。方法としては、約2mの杭を2本立て、その上に看板を設置します。杭が長すぎる場合はその場でカットしました。



あわせて周囲のササを刈り、遠くからでも、看板が確認できるようにしました。しかし、この方法では、多くの杭が必要となる上に労力も大きいため、広い演習林には向きでないと考えました。



そこで、立木の幹を活用する方法を試すことにしました。

バネと針金を繋ぐ公園や街路樹などでもよく見かける方法ですが、どの程度の耐久性があるかも含め、林内で試す価値があると考えました。

ただし、雪深い月形に対応するため、校内で試行した結果、バネは1本ですが、少しでも摩擦が大きくなるように工夫し、留める針金を2本ずつにしました。この作業を9月に実施しましたため、来春に再点検を行う必要があります。

この作業を9月に実施しましたため、来春に再点検を行う必要があります。

この作業を9月に実施しましたため、来春に再点検を行う必要があります。



校内見本林の活動

校内見本林には、この地域では珍しいスギやメタセコイヤなどの樹木、数多くの野鳥も観察できる空間となっています。ベンチや掲示物をとおしてこの空間を小さい子供から高齢者までが安全に利用でき、季節を感じたり樹木について学んだり、楽しんだりできる空間にしたいと考え、まず、環境整備や遊歩道の修繕からはじめることとしました。

5月の点検の結果、腐朽により、地上に出ている部分が碎けてなくなってしまうものや、



完全に抜け落ちてしまったものも多く見られました。そこで、私たちは腐食の速度を下げ、丸太をなるべく長いまま利用するため、横に寝かせる

事にしました。

月形演習林のトドマツ人工林内で間伐した長さ約2mの丸太を利用し、丸太と丸太の間に1本ずつ杭を入れ、アクセントとしました。杭は少しの衝撃で抜けることのないようにハンマーを利用して20cm以上打ち込むように設置しました。トドマツならではの白い樹皮が他のどの要素とも混ざらずにしっかり認識できる仕上がりとなりました。



作業は、全体の2分の1まで進みましたが、今後も継続、維持していく必要があります。

今後の展開

月形演習林については、目指していた林道の状況がわかる掲示が実現できませんでした。具体的には、各ポイントに現在地がわかる演習林地図を配置したいと考えています。また、低い位置にある看板のつけ替えは、南半分が未完となっているため、今後も継続します。

見本林については、歩道の整備を完了し、休憩ができるようなベンチの設置を実現したいと考えています。また、誰でも利用できることを伝えるために、植物だけでなく、野鳥などの紹介ができるコーナーを設置して、身近に自然とのふれあいを体験できる場があることを広めたいです。